

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300257		
法人名	有限会社 サポート		
事業所名	グループホーム「つくしの菴」		
所在地	佐賀県鳥栖市下野町1391-3 (電話) 0942-83-7125		

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 9 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 15.6人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨平屋造り
------	----------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	8,400 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	14 名	男性	5 名	女性	9 名
要介護1	6 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀医院・武田内科医院・三原医院・田尻外科胃腸科・やまうちクリニック・おの眼科医院・古賀素子歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

目の前には筑後川沿いのリバーサイドパークが広がり、春には堤防の土手につくしが群生することから「つくしの菴」と命名したのどかな場所に建つホームである。運営者が地元住民で古くからの住民とも顔見知りの関係である。運営者はじめ3名の調理師が季節の野菜を使った美味しい料理を提供しており、食事が入居者の楽しみの一つになっている。協力医療機関が多く、主治医も多いが全ての主治医との連携が図られている。各主治医毎に連絡ノートを作成し、入居者情報の共有に活用されるほか、医師とは密に連絡を取り合って情報交換するなど医師との連携が確立されている。広い堤防に300坪の畑を有し、野菜や果樹が植えられている。果樹や野菜の収穫は入居者の楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果は、職員勉強会や運営推進会議で取り上げ、改善課題となったものは検討を重ねできるものから改善に活かしている。改善課題となった職員の食事は、職員と話し合いを重ねたが未だ改善されておらず、一部の職員を除いて弁当持参となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。外部評価の結果は職員勉強会に活用する計画である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は区長や民生委員、地域住民や入居者家族などのメンバーで2ヶ月に1度開催され、日頃の取り組みや行事報告、行事計画について報告している。委員から出された意見は検討を重ねサービスの改善に活かしている。外部評価や自己評価の結果を説明し、事業所の取り組みを説明している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便りを発行し、家族に入居者の暮らしぶりを伝えている。家族の面会時に管理者は話をすることを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えて情報交換している。遠方の家族には電話で連絡をとり、報告している。重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口と、行政機関の相談窓口を明記し家族に説明している。投函箱も設置されている。頂いた意見は職員会議や運営推進会議に諮り、運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の清掃活動や行事、区役に参加するなど地域の一員として地元と交流することを心掛けている。自治会に入会し、回覧板で情報交換している。地域の園児や小・中学生との交流も深く、子どもクラブ活動への参加やホーム訪問が行われている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住みなれた地域で、その人らしく安全で安心して暮らし続けられるように「地域との共生、公共機関との連携」を意識した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日3回の申し送り時に理念の確認と唱和を行い、理念の共有に努めている。ホーム内複数個所に理念を掲示し、職員は日頃から理念を意識したケアにあたっている。管理者は日々の業務の中で気付いた時には理念を確認し、職員と共に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域の清掃活動や行事・区役に参加するなど地域の一員として地元と交流することを心掛けている。自治会に入会し、回覧板で情報交換している。地域の園児や小・中学生との交流も深く、子どもクラブ活動への参加やホームの訪問が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員勉強会や運営推進会議で取り上げ、改善課題となったものは検討を重ね具体的な改善に活かしている。また、外部評価結果表は玄関に置かれ、誰でも閲覧できるようにしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長や民生委員、地域住民や入居者家族などのメンバーで2ヶ月に1度開催され、議事録や関係書類も残されている。運営推進会議では日頃の取り組みを報告し、委員から出された意見はサービスの改善に活かしている。また、外部評価や自己評価の結果や事業所の取り組みを説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は古くから地域に居住していて地元とのつながりが深く、行政関係者に顔見知りが多い。また、行政担当者とは連絡を取り合い、事業所の考え方や実態を説明し相談できる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に管理者は必ず声をかけ、話をすることを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えて情報交換している。遠方の家族には電話で連絡をとり、報告している。入居者の日常の様子や活動を撮った写真ファイルを作成し、家族の面会時に情報として活用している。また、ホーム便りを発行し、遠方の家族には送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口と行政機関の相談窓口を明記し家族に説明している。投函箱も設置されている。頂いた意見は職員会議や運営推進会議に諮り、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は入居者の様子を見、理解できる入居者にはそれとなく知らせるなど、入居者の混乱を防ぐ配慮がなされている。家族には事前の説明はされていない。	○	入居者と職員の馴染みの関係づくりは、サービスの質の確保の核心と考えられる。入居者・家族と職員の馴染みの関係を保つことを重視し、職員交代による利用者のダメージを防ぐように異動が最小限に抑えられることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すればできる限り参加できる様配慮されている。事業所内の研修や勉強会など、研修の機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に参加し、情報交換や交流の機会を多く持っている。また、同業者と相互訪問を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅や入院先を訪問したり、入居前にホームの見学を通して十分な説明をし、入居されている方や職員・ホーム内を知ってもらうなど、安心して入居できる支援が行われている。希望により体験入居も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の方法や下ごしらえ、昔から伝わる生活の知恵、戦争体験や戦後の生活体験など、人生の先輩として学ぶ事は多く、職員と共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個人別の1日の様子が時間毎に細かく記録できるチェックシートと介護記録帳がある。職員は日々の生活を通して入居者と会話する事を心掛けており、本人の思いや意向を汲み取るように努めている。希望や意向を伝えることが困難な入居者には、表情の変化や態度から察したり、家族の面会時に情報を得よう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族から要望を聞いた上で、職員や主治医が話し合っ具体的介護計画が立てられている。職員は日々のケアの中で入居者の変化や異常を敏感に感じ取るよう心がけ、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化があった時はその都度ケアマネジャーや看護職員・管理者と話し合いがもたれ、見直しが行われている。2週間に1度研修などの各種委員会やスタッフ会議が開催され、その時に入居者情報も伝えられている。個人の介護記録帳を活用し、毎日のチェックがモニタリングを兼ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制ができていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できるよう支援されている。家族や本人の要望で、病院の送迎や外出支援・外泊支援など柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診の継続を支援し、安心して医療を受けられる体制ができています。通院などの送迎は入居者や家族の要望に沿って支援している。主治医とは24時間何時でも受診できる関係ができており、安心して医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に話し合いが行われている。入居者の状態に合わせて家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と職員・主治医は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から理念を念頭に置き、入居者の尊厳を大切にされた対応がなされている。誇りやプライバシーを損ねることの無い様に言葉かけや口調にも注意している。個人情報の記録簿も適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決っているが、それにとらわれる事無く入居者の希望を大切にされた支援を心掛けている。起床時間や食事の時間・場所、着替えなど、その人のリズムに合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の意見を聞きながら立てられ、調理師資格を持つ職員が入居者の好みに合わせて作っている。食事の下ごしらえや後片付けなど、入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。職員は食事介助や見守りをして側に居るが、食事は弁当持参など別に摂っている。	○	共に暮らしている家族の一員として、職員と入居者が同じ食事を一緒に摂れるような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望がある場合は毎日の入浴が可能である。入浴時間帯や時間などは本人の希望を大切に、ゆっくり入浴を楽しめる支援がなされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、時間や順番を変えたり職員の声掛けで対応している。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤など入浴が楽しみになるような工夫もされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや備品チェック係、入居者のお世話係、テーブル拭き、金魚の餌やりなど入居者それぞれに楽しみごとや役割があり、職員は見守りながら支援している。金魚すくいのお小さな金魚が野球ボールの大きさに育ち、名前も付けられるなど、成長が入居者の楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、花壇や菜園の見回りなど入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。玄関のベンチを活用し、日光浴などの戸外活動をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで日中は施錠していない。出入口はホーム内から見通しが利き、職員は常に入居者の状況を把握するよう心掛けて見守りながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者が参加して年2回消防署指導の避難訓練が実施され、近隣住民にも案内している。夜勤職員は火災想定訓練を実施している。仮想火元(火点箇所)を毎回変更し、ホーム内外全箇所での夜間訓練を全職員が経験することで、緊急時に慌てず確実な避難誘導ができる様に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は主食・副食を毎食毎に記録し、一人ひとりにあった食事支援につなげている。主治医の栄養指導を受け、支援に活かしている。水分摂取はその都度記録し、食事を除いた1日の水分摂取量が800cc～1400ccになるよう一人ひとりに合った支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂ホールは広くて見通しがよく、季節の花や手芸品・カレンダーが飾られて季節を感じる雰囲気作りがなされている。休憩用のソファや椅子が置かれ、思い思いに居心地良く過ごせるような居場所がつけられている。心地よい音量のBGMを流し、ロールブラインドやカーテンで光の調節をするなど入居者にとって不快な音や光がないように配慮している。	○	廊下には温度管理が行き届かない場所がある。居室の出入りなどで利用される入居者や訪問者もあり、生活空間全般の居心地の良さを確保されることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望の品の持込みが可能である。テレビや冷蔵庫、ダンス・本棚や仏壇などを持参している入居者もいる。また、畳やカーペットを敷いている方もおられる。写真や手芸品・カレンダー、人形などが飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。		